

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医 学） 氏 名 寺下 貴美

	主査	教授	玉城	英彦
審査担当者	副査	教授	上田	哲男
	副査	教授	小山	司
	副査	教授	田中	真樹
	副査	教授	寺沢	浩一

学 位 論 文 題 名

患者の受診行動に着目した地域医療システムに関する研究
ー複数医療施設受診における行動パターンの抽出と受診行動に影響を与える要因の分析ー

本研究はフリーアクセスを由来とする患者の受診行動に着目し、データマイニング手法を用い、レセプトデータから患者の受診行動パターンとそのパターンに至った患者の特徴の抽出、住民へのインタビューから仮想評価法を用いて自治体病院に対する価値の測定、具体的な語りから受診行動に影響を及ぼす要因の抽出を行った。

質疑応答では最初に田中教授から、分析対象としてK町を選んだ理由、行動パターンでは初診かどうかは重要ではないか、ロジットモデルの意味およびモデルの妥当性と他のモデルでの検討、ロジスティック回帰分析で説明変数に影響が表れなかったことの意味、質的研究をして意外なファクターはあったかについて質問があった。次に小山教授から、実際の政策的な提案、この研究を今後どのように発展させるのかについて質問があり、論文の誤字について指摘があった。次に上田教授から日本の医療費は本当に高いのか、多受診および重複受診が無駄なのか、または他に原因があるのかとの質問があった。次に玉城教授からなぜ住民にとっての重要性を調べなければならないのか、データの24万円は外れ値ではないか、考案したモデル図についての質問があり、英文基礎論文の構成について指摘があった。最後に寺沢教授から日本の財政における医療費の割合、日本におけるFamily doctor制度についての質問があった。

いずれの質問に対しても、申請者は自身の研究から得られたデータや分析結果、考察、先行研究などを引用して適切に回答した。

この論文は量的研究と質的研究を組み合わせることで地域の視点から患者の受診行動を調査したものとして高く評価され、今後の地域医療システムを考える上で基礎となる研究として期待できる。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。